

## 第一生命経済研究所のホームページご紹介

アドレス：<http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/top.cgi>（「第一生命経済研究所」で検索可能）  
7月上旬までに上記ホームページに登場したレポートテーマの一例をご紹介します。このほか数多くの詳細な経済分析レポートが掲載されていますので、経済研レポートと合わせてご活用ください。

～アジアへの輸出で経済成長を維持できるのか、原油価格再上昇の影響を考えます。

2009/7/2 「輸出と直接投資によるアジア経済との連携～アジアの需要の取り込みによる日本経済の成長～」

2009/6/18 「景気回復の重石になる原油価格～年度末 100 ドル/バレルで家計負担 5.3 万円増、経常利益▲4.8%押し下げ～」

掲載カテゴリ：日本経済分析チームによる「日本経済の羅針盤」

～激動する世界の金融市場動向を毎週お知らせします。

2009/7/13 「Market Watching Weekly Market Report」（毎週月曜日配信）

掲載カテゴリ：鳥峰義清の「マーケットウォッチング」

～企業の景況感を映し出す日銀短観の分析やローン事業の現況から日本経済を説きます。

2009/7/7 「金あまり時代の予兆～危機を越えて、再来する運用難～」

2009/7/1 「底入れ後も慎重 日銀短観 6 月調査～経常利益・設備投資計画は弱さが目立つ～」

2009/6/26 「金融機関の住宅ローン依存への警戒～採算低下が懸念される住宅ローン～」

掲載カテゴリ：熊野英生の「金融市場の謎を解く」

～海外の経済指標発表予定や成長力に期待がかかるアジア各国の景気を探ります。

2009/7/17 「海外 経済指標・イベント予定 “Weekly Global Economy”」（毎週金曜配信）

2009/6/22 「ロシア経済事情：投資資金は回帰するも実体経済は『蚊帳の外』」

2009/6/19 「インド経済事情：財政・金融対策で景気は底入れを果たす」

掲載カテゴリ：桂畑誠治の「米国経済を探る」、「アジア・新興諸国経済」

### 編集後記

本レポートで『欧州見聞録』を執筆しているブラッセルの橋本択摩氏によると、「日本経済にはアジアがあるからまだ良いが、欧州にはいま何も無い」という声を最近耳にすることがあるという。

経済の先行きを見る上で、アジアの存在は時を追うごとに大きくなってきた。日本を手本に工業化に取り組んだ国々が、価格競争力でわが国の軽工業を凌駕し、やがていくつかの産業分野では世界市場を席卷するようになった。低廉な労働力が市場経済に参入を果たしたことにより、世界にデフレを輸出している、と言われたこともあった。しかしこのところは成長市場として誰もが大きな期待を寄せている。

景気が冴えなかった日本では、つい最近まで株価や地価の上昇に恵まれた欧米諸国をうらやんだり、資源高で潤う国々の羽振りの良さに驚いたりしていた。今度の金融危機ではアジアも無縁ではなく、デカップリングかリカップリングか（他地域から自律して経済成長できるか否か）の議論は続いている。しかし、日本経済にとってアジアとのつながりが大きなプラスであるということは間違いない。成熟した国内から需要と供給の枠を広げるとすれば、アジアを取り込み、ところによってはアジアに取り込まれるような相互関係に踏み込んでいく覚悟が必要だろう。（H. U）